

LifeLine防災システムの概要説明

LifeLine防災システムは、スマートデバイスを活用した避難者及び避難支援者を結ぶ災害コミュニケーションプラットフォームです。

☆発災時の被災者、帰宅困難者とその家族、友人、外国人が日本全国土地勘が無くとも、アプリで「避難所までの誘導支援」

「安否登録」「ハザード情報共有」等の機能が利用し、安全・安心の確保が容易である。

☆自治体等の管理者は「避難者へのメッセージ通知」「避難所毎の開け閉め」「避難所毎の避難者数の把握」等が行える。

☆日本における最大の地図データ提供会社ゼンリンデータコム社と共同開発した唯一の純国産地図を用いた防災アプリであり、何処

よりも正確な避難所情報及びルート案内を実現。併せて、災害時を想定し周辺地図データもアプリ起動時に自動取得するため、

他アプリのように事前ダウンロードの必要がなく、発災直後の通信途絶状況下でも利用が可能。

☆将来的には、ジオフェンスを用いたハザード個所を避けたルート表示、海外展開も視野に入れている。（特許出願中）

特徴その1

～ハザード投稿機能～



- ・直感的な入力操作が出来るようにボタンを配置し、テキスト、画像の投稿が容易に行える。
- ・投稿された情報をハザードマーク（ユーザ投稿は黄色、管理者投稿は赤）として地図上に表示。
- ・各ハザードマークをタップする事で、被害状況（ビル倒壊、火災等）の詳細情報をテキストと画像で確認可能。
- ・予め危険箇所を登録しておく事で、危険箇所の事前周知が地図上で可能。
- ・投稿された情報はアプリユーザ間、アプリユーザと管理者間でリアルタイムに地図上で共有可能。

特徴その2

～メッセージ配信機能～



- ・管理者からアプリユーザへ避難所の開所/閉所通知送信
- ・ユーザは、どの避難所が空いていて、どの避難所が定員オーバーで閉所されたかメッセージを受信する事で把握が出来る。
- ・管理者からアプリユーザへ、メッセージ送信が出来る。
- ・管理者は、通知したい内容を日本語、英語の両方、または何れかのメッセージ送信が可能。
- ・受信側端末の言語設定に従い、日本語、英語いずれかのメッセージを受信。
- ・受信したメッセージからのアプリ起動が可能。

特徴その3

～SNS投稿機能～



- ・安否登録は、東日本大震災の際に活用された、FacebookやTwitterへの同時投稿が可能。
- ・FacebookやTwitterへは、安否情報と登録を行った現在値地点の地図情報と共に共有。
- ・サービス稼働時にはJ-AnpiやGoogle Person Finderと接続予定。